

聖書日課 『からし種』 2022.11.20-11.27

<p>11月20日 (日)</p> <p>民数記 2章</p>	<p>「イスラエルの人々は、それぞれ家系の印を描いた旗を掲げて宿営する。臨在の幕屋の周りに、距離を置いて宿営する」(2節)。幕屋を囲み東西南北に宿営した十二部族の旗が風にたなびく光景を想像する。彼らは単なる人の集合体ではなく、幕屋を真ん中にした礼拝共同体である。主なる神を真ん中に血筋の多様を喜びあう共同体として礼拝をささげたい。</p>
<p>21日 (月)</p> <p>民数記 3章</p>	<p>「主はまた、モーセに仰せになった」(11節)「レビ人はわたしのものである」(12節)。レビ人は、幕屋(移動礼拝所)の管理や運搬など、毎日の礼拝を整える大切な仕事を担った。本来イスラエルの各家庭に生まれた初子が担うべき仕事をレビ人が代わりに負ったのである(12節)。主から「わたしのもの」と呼ばれる光栄と責任の重さを改めて考えさせられる。</p>
<p>22日 (火)</p> <p>民数記 4章</p>	<p>「以上は、モーセを通してなされた主の命令によって、一人一人その作業や運搬の仕事に就かせるためにモーセが登録した」(49節)。レビ人の家に生まれると生後1か月で登録され、息子は父の仕事を学んでいった。キリスト教会には「家系」による奉仕はない。ただ、人から人へ、奉仕を受け継ぐ時に、その信仰を受け継いでいく祈りを大切にしたい。</p>
<p>23日 (水)</p> <p>民数記 5章</p>	<p>「祭司は女を前に進ませ、主の御前に立たせる」(16節)、「男は罪を負わない。妻は犯した罪を負う」(31節)。「姦淫の疑惑をもたれた妻」についての決まりを読む時、「男尊女卑」の思考に胸が痛む。主イエスの母マリアがこの法規によって裁かれようとしていた時に、夫ヨセフは主の天使のお告げを聞いてマリアをそのまま引き受ける決断に導かれたのだった。</p>

聖書日課 『からし種』 2022.11.20-11.27

<p>24日 (木)</p> <p>民数記 6章</p>	<p>「ナジル人の誓願期間中は、頭にかみそりを当ててはならない」(5節)、「神に献身したしるしはその髪にあるからである」(7節)。士師記13章に登場するサムソンを想う。神に献身したしるしを大切にすることは、決して形式的なことに留まらない。形式を大切にすることを受け継がれていく祈りや信仰がある。私たちはどんな「献身のしるし」を大切にするのだろうか。</p>
<p>25日 (金)</p> <p>民数記 7章</p>	<p>「モーセは神と語るために臨在の幕屋に入った。掟の箱の上の贖いの座を覆う一對のケルビムの間から、神が語りかけられる声を聞いた」(89節)。旧約においては掟の箱の「贖いの座」から主なる神は語られた。新約に生きる私たちはイエス・キリストの十字架を通して語りかける主の語りかけを聞く。その語りかけを聴くための礼拝を一人ひとりが大切にしたい。</p>
<p>26日 (土)</p> <p>民数記 8章</p>	<p>「主はモーセに仰せになった。イスラエルの人々の中からレビ人を取って、彼らを清めなさい」(5-6節)。旧約の人々が忌避した「ケガレ」は、主イエスの十字架によって「ケガレ」ではなくなり、神の恵みに背を向けて生きる私たちの「罪」=「心の向きのズレ」が問われることとなった。私たちを「清いもの」として礼拝に招いてくださる十字架の恵みを心から感謝して。</p>
<p>27日 (日)</p> <p>民数記 9章</p>	<p>「イスラエルの人々は主の命令によって旅立ち、主の命令によって宿営した」(18節)。主の指示によって建てられた幕屋に雲が覆っている(夜は燃える火のように見える)時は民は宿営し、雲が昇ると彼らは旅立った。彼らはモーセを通してなされた主の命令に従い、主の言いつけを守った。主に従いきった民の姿は美しい、素晴らしい。</p>